

19世紀南オンタリオのグエルフにおける タウン・プランニングとキリスト教

谷口 美都子

I. 研究視点と目的

II. 19世紀カナダの宗教環境とグエルフのタウン・プランニング

- (1) 19世紀カナダの宗教環境
- (2) グエルフのタウン・プランニング
- (3) 教会の設立計画と建設過程

III. グエルフの発展と各宗派の展開

- (1) グエルフの発展と人口動向
- (2) 各宗派の展開：1840～50年代
- (3) 各宗派の展開：1860年代以降

IV. 開拓期におけるキリスト教

I. 研究視点と目的

北アメリカやオーストラリアの農牧業地域には、イギリス植民地時代からの開拓拠点としての歴史をもつ集落が点在している。これらは、開拓ないし測量の基本単位であったタウンシップの中に、開拓拠点もしくは将来の農業地帯のサービスセンターとしてつくられた都市的集落である。小稿では、これらの集落をカントリータウンと称し¹⁾、農業従事者が多い散村的な農業集落とは区別する。

カナダ南オンタリオへのヨーロッパ人の入植は、1775年からのアメリカ合衆国独立戦争で居住地を追われた王党派の移住によって本格化した²⁾。約7000人がセントローレンス川やオンタリオ湖・エリー湖岸に移住した。人口の増加により、1791年イギリス政府は、当

時のカナダ植民地をアッパーカナダ (Upper Canada) とローワーカナダ (Lower Canada) の2つにわけた。それぞれ、現在のオンタリオ州、ケベック州の原形である。当時の南オンタリオは、森林が続き、開発は容易ではなかったが、1800～1820年の間に先住民からの土地買得が進展し、アッパーカナダ政府の所有地が拡大した。植民地政府は、先住民から土地を安く買い上げ、植民地の行政官による系統立った測量を行い、入植者に下付した。その測量の基本単位となったのが、タウンシップ³⁾である。そして、ドーチェスター (Dorchester) 総督やシムコ (J. Simcoe) 準総督の計画で、各タウンシップの中に開拓拠点としての町をつくることに力がいれられた⁴⁾。当初のタウン・プランニングには、イギリスの植民地政策の要素が非常に強くみられ、やがてその主体は政府から民間へと変化していった。個人起業家や土地開発企業がタウンシップを投機や商業的動機から買い取り、タウン・プランニングを行うようになった。カントリータウンは、カナダの開拓前線であり、初期の開拓者にとっては町経営の夢を実現する舞台であった⁵⁾。

一方、カナダの19世紀は「キリスト教の世紀」⁶⁾といわれる。多くの研究が指摘するように、宗教は当時の人々の生活を規定し、社会を組織する役割を担っていた⁷⁾。したがって、カントリータウン建設とその発展におい

て、宗教は重要な要素の1つであったと考えられる。南オンタリオを含むイギリス系カナダにおいては、イギリスの伝統とアメリカ合衆国の信仰復興運動の影響を受けたプロテスタント諸派が信仰の中心であった⁸⁾。19世紀カナダのキリスト教研究は、主として教団・聖職者や行政側の視点に立つもので、実際の開拓集落における宗教の役割と集落の発展過程との関わりなどは、十分に明らかにされているとは言えない。そこで小稿では、カントリータウンの計画・発展とキリスト教との関係を明らかにしたいと考える。

カントリータウンの事例として、南オンタリオのほぼ中央部に位置するウェリントン郡のグェルフをとりあげる。現在8万人余りの人口を有するグェルフは、水資源や土壌にも恵まれ、19世紀初頭の比較的早い時期から大胆なタウン・プランニングに基づいた開発が始まった。カントリータウンの多くは、19世紀後半に人口のピークを迎え、それ以降20世紀半ばまでの都市化の時代に人口が減少し、停滞する⁹⁾。しかし、グェルフは19世紀後半以降も順調に人口増加を続け、小さなカントリータウンが淘汰される都市化の時代に、ウェリントン郡最大の中心地としての地位を不動のものとした。グェルフは、開拓期の19世紀カナダにおいて、フロンティアから出発し、都市へと変貌していったカントリータウンの好例である。

以下では、19世紀カナダの宗教環境を概観した上で、グェルフのタウン・プランニングとキリスト教各宗派の動向を検討する。そして、グェルフの事例より、開拓期カナダにおけるキリスト教の特徴を考察したい。

II. 19世紀カナダの宗教環境とグェルフのタウン・プランニング

(1) 19世紀カナダの宗教環境

19世紀のカナダにおけるキリスト教は、カトリックとプロテスタント、プロテスタント

内の各宗派、各宗派内のグループという3つの構造でとらえることができる。各宗派には、ヨーロッパの影響が強いものとアメリカ合衆国の影響が強いものがあつた。初期の開拓者の多くは、出身地の教団に所属する傾向にあり、それが開拓地の英国教会・スコットランド長老教会・カトリック教会の母体となった¹⁰⁾。19世紀に本格的な開拓がはじまったアッパーカナダでは、宗教に無関心で特定の宗派に属することを拒絶する開拓者も存在した¹¹⁾。開拓者にとって、キリスト教各宗派の教義上の違いはさして重要ではなかつた。したがって各宗派の伝道は、伝統的な宗教文化をフロンティアの環境に適応させていくことに重要性がおかれた。1800年ごろのアッパーカナダには、約2万人が広範囲に散在しており、計25人という少数の牧師での布教活動は困難を極めた¹²⁾。

1812年の米英戦争では、アメリカ合衆国がイギリスとイギリス領植民地（カナダ）に宣戦し、五大湖を通過してカナダを侵略した。1814年の終戦後、イギリス各地からの移民が飛躍的に増加し、カナダは急速に発展した。カナダでは王党主義や愛国主義が強くなり、宗教においては、アメリカ合衆国の流れを汲む宗派よりも、英国教会が支持されるようになった¹³⁾。

しかし1820年以降は、カトリックとプロテスタント非国教会派がまとまって英国教会と対立した¹⁴⁾。カナダ植民地での国教化をめざす英国教会に対し、反発が次第に強くなった。英国教会は、教区牧師の収入や教会付属地¹⁵⁾を受領していたが、他宗派の反対を受けて1830年代末までにその制度はなくなった。やがて対立は収まっていったが、英国教会に代表されるヨーロッパ的・都市的・伝統的な宗教と、メソジストやバプテストなどのアメリカ的・村落的・福音主義的な宗教の対比は依然として大きく存在した。前者は、規則・安定・社会的調和をかかげ、社会的指導

者層に支持された。後者は、変革をかかけ、多くの農民や職人層を中心に支持された¹⁶⁾。

一方、1820年代以降移民の数が急増するにつれ、植民地の責任政府を求める声が強くなっていった。アッパーカナダとローワーカナダは1841年に統合され、連合カナダ植民地となっていた。そして1847年にノバスコシアで責任政府制が導入されて以降、各地で連邦結成への気運が高まり、1867年にはイギリス帝国最初のカナダ自治領が成立した¹⁷⁾。カナダ自治領は、イギリスの主権と伝統を尊重しつつ、独自の文化的生活を営む自立と自由をめざす国となった。1850年代には、教会と政府の結びつきは完全になくなった。各宗派は自力で資金を調達する北アメリカの教区システムを導入し、カナダの教区はイギリスの各伝道会の支配を受けないものとなった¹⁸⁾。

この変化の中で、キリスト教各宗派の組織化と教会建設は進展し、カトリック教会・長老教会¹⁹⁾・英国教会・メソジスト²⁰⁾が四大宗派となっていった(表1)。1871年には長老教会・メソジスト・バプテテスト²¹⁾が信者数に占める比率を増やし、「その他」の宗派の割合が減る。1891年には、メソジストがさらに比率を増やす。地域別にみると、1871年にはケベックではカトリックが9割近くを占める。オンタリオでは、メソジストが約4分の1、次いで長老教会と英国教会がそれぞれ約2割である。1891年になると、ケベックではカトリックの割合は変わらないが、バプテ

ストが減り英国教会が増えている。オンタリオでは、メソジストの割合がさらに増えている²²⁾。開拓の進むオンタリオの人々は、権威主義的な英国教会よりも、巡回牧師が開拓地に入り込んで定期的な訪問を重ねるなど地道な布教活動をするメソジストを支持するようになっていったと考えられる。これらの宗派の中で、出身地域の民族集団と結びつきが強いものは、アイルランド系の人々のカトリック教会とスコットランド系の人々の長老教会である²³⁾。19世紀末には、95%以上の成人がいずれかの教団に加入していた。

(2) グェルフのタウン・プランニング

南オンタリオでは、1792年にオンタリオ湖から北西45度の方向に測量基準線が設定され、それに沿って南東から北西方向へタウンシップの測量・設定が行われた²⁴⁾(図1)。グェルフのあるグェルフ・タウンシップは、植民地政府が1792年に先住民との交渉の末に買得し、王領保留地としていた。当時、プロテスタントの牧師を支援し、政府の経費を供給する方法として、タウンシップ内の土地の7分の1が聖職者保留地に、さらに7分の1が王領保留地とされた。通常両保留地は開拓者に賃貸され、その収入が教会と政府を支えていたが、グェルフ・タウンシップは、居住地として開拓されない状態が続いていた²⁵⁾。アッパーカナダの法務長官ロビンソン(J. Robinson)は、グェルフ・タウンシップを売却することを考えた。また、1812年の戦争で経済的損失を被った人々は、低迷する政府の土地開拓政策打開の救世主として、スコットランド人のゴルト(J. Galt)に期待を寄せていた。

ゴルトは、アッパーカナダの保留地や空き地の売却を働きかけ、その一方で土地投機と住宅販売の会社「カナダ・カンパニー」を設立することを考えた。1823年に自分の計画をイギリス議会に承認させてアッパーカナダ調

表1 19世紀カナダのキリスト教

Table 1. Christian denominations of Canada in the nineteenth century
(単位:人(%))

| 宗派 | 1851年 | | 1871年 | | 1891年 | |
|---------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|
| カトリック教会 | 983,680 | 42.7 | 1,492,029 | 42.8 | 1,992,017 | 41.2 |
| 長老教会 | 310,512 | 13.5 | 544,998 | 15.6 | 755,326 | 15.6 |
| 英国教会 | 303,897 | 13.2 | 494,049 | 14.2 | 644,059 | 13.4 |
| メソジスト | 258,157 | 11.2 | 567,091 | 16.3 | 847,765 | 17.5 |
| バプテテスト | 92,489 | 4.0 | 239,569 | 6.9 | 303,839 | 6.3 |
| その他 | 355,184 | 15.4 | 148,025 | 4.2 | 288,228 | 6.0 |
| 合計 | 2,303,919 | 100.0 | 3,485,761 | 100.0 | 4,833,234 | 100.0 |

(資料) *Census of Canada: 1851, 1871, 1891*

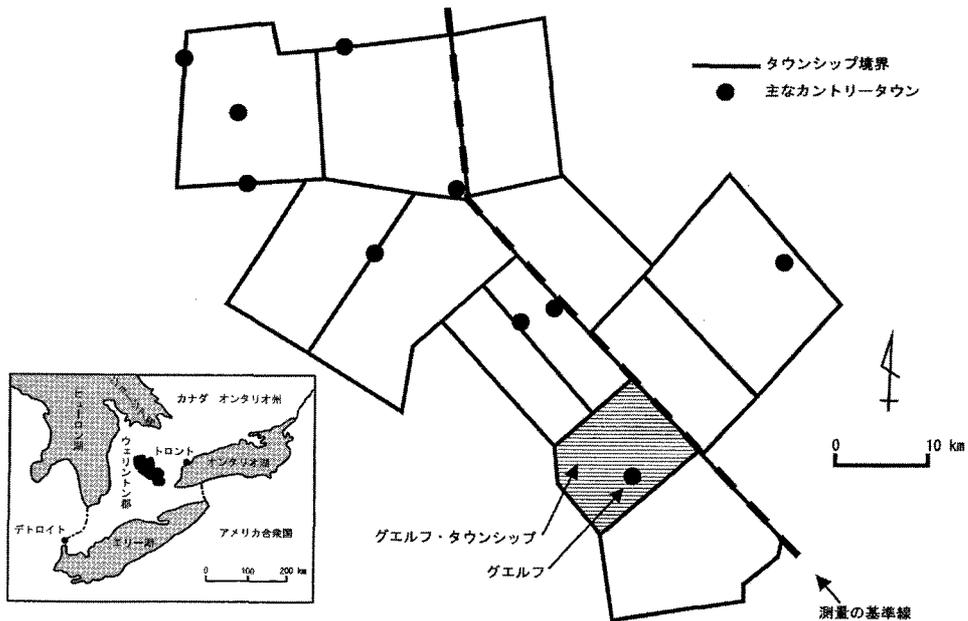


図1 ウェリントン郡のタウンシップと主なカントリータウン
Figure 1. Townships and country towns in Wellington County

査委員会のメンバーとなり、1825年にはアッパーカナダ副総督に220万エーカーの保留地の評価結果を報告した。1827年にアッパーカナダにやってきたゴルトは、原生林の土地を開拓者に販売するのではなく、「道路や必要なものを備えた町」の居住区画として販売しようとした。1829年、グエルフ・タウンシップを含む132万エーカーの王領保留地が、彼のカナダ・カンパニーに売却された²⁶⁾。

グエルフは、このような経過を経て、ウェリントン郡最初のカントリータウンとして計画された。ゴルトは、広場や様々な都市的施設の建設を重視し、扇形で放射状道路をもつ独特のデザインを考案した。南オンタリオで方格プラン以外の街路パターンを持つ計画集落は、グエルフとヒューロン湖岸に1829年に建設されるゴードリッジ (Goderich) のみである²⁷⁾。いずれもカナダ・カンパニーの開発である。扇形と放射状道路は、グエルフを流れる河川流路の凹部を基点としたもので、小地形の起伏を生かすものであった²⁸⁾。放射道

路は、川沿いに建設される製材所・製粉所や市場広場へのアクセスが便利のように考えられた。扇形の中心部が、市場をはじめとする商業地域として考えられた。扇形の外側は方格プランを採用し、住宅地域として考えられた。また、周辺のタウンシップを結ぶ道路建設にも力を入れ、グエルフが商業の中心地として発展することにより、周辺タウンシップの農地の価値を高めようとした。一般的にカントリータウンは、周辺の農業地域が発達するにつれてそのサービスセンターとして成長する例が多いが、ゴルトは最初から開拓拠点としてのカントリータウン建設を指向したのである。

(3) 教会の設立計画と建設過程

計画集落における教会の必要性を重視したゴルトは、カトリック教会・スコットランド長老教会・英国教会の主要三宗派の用地を優先的に確保した (図2)。美しい中央の丘はカトリック教会、広場として計画している中

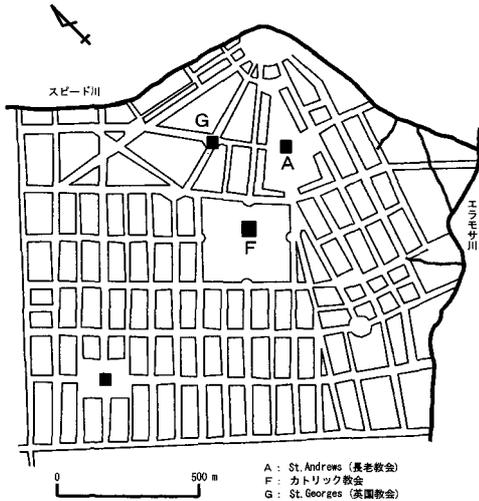


図2 グエルフのタウン・プランニングと教会立地計画 (1827年)
 Figure 2. Plan of Guelph and the location of churches, 1827
 ('Plan of the Town of Guelph, Upper Canada, Founded by the Canada Company, 1827' に基づいて作成)

心部分は英国教会, 別の丘は長老教会の用地とした。ただし, 教会建設の資金は十分でな

く, また聖職者もいなかったため, 最初は学校校舎などで宗派を超えた巡回牧師による礼拝が行われた。ほどなく長老教会・カトリック・英国教会の教区ができた。当時の長老教会と英国教会は, 半公的性格を持ち, 聖職者保留地基金から毎年助成金を得ていた²⁹⁾。またローマカトリック教会は, ゴルトと司教の個人的つながりから優遇を受けていた。ゴルトがキリスト教各宗派に土地の譲渡や教会建設資金の寄付を積極的に行った結果, 1830年代には三宗派の教会が建てられた。各宗派の教会設立の時期とその経緯を以下に整理する(表2)³⁰⁾。

①長老教会

1827年に57人のスコットランド人の入植後, スコットランド教会の一派である聖アンドリュー長老教会(A)が組織化された。1829年より定期的に礼拝が行われ, 日曜学校もいち早く設立された。カナダ・カンパニー

表2 19世紀グエルフの教会

Table 2. Churches of Guelph in the nineteenth century

| * | 教会名 | 宗派 | 教区設立年 | 経過 |
|---|-------------------|--------------|---------|--------------------------------------|
| ① | A 聖アンドリュー教会 | 長老教会 | 1828 | 1832年教会完成, 1858年再建完成(移転) |
| | B ノックス独立教会 | 長老教会(自由教会) | 1844 | 1844年Aより分裂, 1847年教会完成, 1869年再建完成(移転) |
| | C 第一長老教会 | 長老教会 | 1844 | 1844年組織化し教会完成, 1870年代に自主解散 |
| | D シヤルマーズ教会 | 長老教会(自由教会) | 1868 | 1868年Bより分裂, 1871年教会完成 |
| | E 聖パウロ教会 | 長老教会(自由教会) | 1889 | 1882年Bの日曜学校支部として組織化 |
| ② | F カトリック教会 | カトリック教会 | 1827 | 1835年教会完成, 1852年再建完成, 1888年再々建主要部完成 |
| ③ | G 聖ジョージ教会 | 英国教会 | 1833 | 1833年教会完成, 1851年教会再建, 1873年教会再々建(移転) |
| | H 聖ジェームズ教会 | 英国教会 | 1890 | 1890年Gより分裂, 1892年教会完成 |
| ④ | I ノーフォーク教会 | メソジスト(ウェスレー) | 1836 | 1838年教会完成, 1856年教会再建完成, 1876年改装 |
| | J ベイズリー教会 | メソジスト(原始メソ) | 1846 | 1846年教会建設開始, 1865年再建完成(移転) |
| | K ダブリン通り教会 | メソジスト(ウェスレー) | 1876 | 1876年教会完成 |
| | L メソジスト監督教会 | メソジスト | 1880 | 1880年教会建設開始 |
| ⑤ | M トリニティ教会 | 会衆派教会 | 1834 | 1840年教会完成 |
| | N ジオン教会 | 会衆派教会 | 1867 | 1867年教会完成, 1882年閉鎖 |
| ⑤ | O 第一教会 | バプテテスト | 1853 | 1853年組織化, 1868年教会完成, 1875年教会再建(移転) |
| | P トリニティ教会 | バプテテスト | 1890 | 1890年Oより分裂し組織化 |
| ⑥ | Q クエーカー派教会 | その他 | 1855 | ミーティングハウスで礼拝 |
| | R ジオン福音派教会 | その他 | 1857 | 1856年教会完成, 1880年閉鎖(Sに売却) |
| | S クリスチャン・サイエンス派教会 | その他 | 1878, 9 | 1880年Rより購入 |
| | T デルフィアン派教会 | その他 | 1857 | 1880年閉鎖 |
| | U 救世軍 | | 1884 | 1855年集会所完成 |

*左端列の数字と左2列目のアルファベットは, 本文の宗派別の説明に対応したものである。宗派別の成立年順に整理している。

(資料) ①Moore, G.F., *Places of Worship Records Inventory* Wellington County Section, Ontario Genealogical Society, 1996

②Johnson, L.A., *History of Guelph 1827-1927*, Guelph Historical society, 1977, pp.109-118, 219-231

③各教会資料, 現地調査

が教会用地と建設資金を提供し、1832年に教会が完成、当時の教会員は103人であった。

②カトリック教会

ゴルトは、カナダ・カンパニー設立の助言を受けた友人のマクドネル (A.Mcdonell) 司教との関係から、オンタリオでは珍しくカトリック教会の用地を最優先に確保した。イエズス会は、1829年に伝道使節結成のためグエルフに神父を送った。1835年に木造教会 (F) が完成、1838年に最初の専任司祭が誕生した。教会は聖パトリック教会とよばれ、教会員はアイルランド系の人々が中心であった。

③英国教会

1832年にアイルランド出身の裕福な聖職者であるパルマ牧師 (A.Palmer) が教会を組織し、ゴルトが用地として確保していた聖ジョージ広場で礼拝を行った。カナダ・カンパニーの援助を受けて、1833年に木造の聖ジョージ教会 (G) が完成した。

Ⅲ. グエルフの発展と各宗派の展開

(1) グエルフの発展と人口動向

先に述べたように、19世紀後半のカナダは、イギリス系を中心とする移民を多く受け入れ、内陸部の農業開拓やカントリータウンの建設が進展した。ウェリントン郡内では、19世紀前半にはグエルフを含む4つのカントリータウンが、1840~70年代にかけて6つのカントリータウンが建設された³¹⁾。1850年には全カナダの植民地で、移住者が約250万人になった。グエルフでも1850~80年代にかけて人口が著しく増加し、教会・学校・病院などの社会施設も多く建設された。グエルフの町域は、当初ゴルトが計画したものより大きく広がっていった。扇形の中心部以外は、方格パターンの土地区画が広がっていった³²⁾。1850年代以降は工業化が進み、スピード川沿いに製材所や製粉所がつくられ、ミシン工場・馬車ぞり工場なども創業した。雑貨屋や鍛冶屋といった日用品を販売する大型の商店

も多くなった。この時期、比較的大きなカントリータウンは、鉄道を誘致することで繁栄していく。グエルフも1857年に鉄道が開設し周辺地域の中心地としての地位が高まっていった。1870年代には、工業は最盛期を迎え、人口が増加し中心地機能の充実したグエルフは、1879年に町 (town) から市 (city) へと昇格した³³⁾。

この時期の人口動向を、出身地域・宗派より検討する (表3)。1851年から1871年の20年間に人口は約3.7倍に、1881年までの30年間では約5.3倍に急増した。カナダ生まれの第2・第3世代が増え、1851年にはグエルフ総人口の約4割であったが、1881年には7割までになった。この間、19世紀半ばのアイルランド飢饉後の1851年には、アイルランド出身者が急増した。1851~71年にかけては、アメリカ出身者とスコットランド出身者の伸び率が大きい。

宗派別人口では、当初からの三宗派が異なる動きを見せている。長老教会は、1851年~81年まで安定して約4分の1を占めている。

表3 グエルフの出身地別人口と宗派別人口

Table 3. Population of Guelph by country of birth and denominations
(単位: 人・%)

| 出身地 | 1851年 | | 1871年 | | 1881年 | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| イングランド | 507 | 27.3 | 1,203 | 17.5 | 1,258 | 12.7 |
| アイルランド | 392 | 21.1 | 695 | 10.1 | 698 | 7.1 |
| スコットランド | 200 | 10.8 | 615 | 8.9 | 686 | 6.9 |
| カナダ | 722 | 38.8 | 4,062 | 59.1 | 6,857 | 69.3 |
| アメリカ合衆国 | 34 | 1.8 | 236 | 3.4 | 276 | 2.8 |
| その他 | 5 | 0.3 | 67 | 1.0 | 115 | 1.2 |
| 合計 | 1,860 | 100.0 | 6,878 | 100.0 | 9,890 | 100.0 |

(単位: 人・%)

| 宗派 | 1851年 | | 1871年 | | 1881年 | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| カトリック教会 | 193 | 10.4 | 1,442 | 21.0 | 1,895 | 19.2 |
| 長老教会 | 498 | 26.8 | 1,729 | 25.1 | 2,422 | 24.5 |
| 英国教会 | 559 | 30.1 | 1,413 | 20.5 | 1,901 | 19.2 |
| メソジスト | 392 | 21.1 | 1,483 | 21.6 | 2,442 | 24.7 |
| バプテテスト | 19 | 1.0 | 171 | 2.5 | 482 | 4.9 |
| 会衆派教会 | 191 | 10.3 | 284 | 4.1 | 510 | 5.2 |
| その他 | 8 | 0.4 | 356 | 5.2 | 238 | 2.4 |
| 合計 | 1,860 | 100.0 | 6,878 | 100.0 | 9,890 | 100.0 |

(資料) *Census of Canada : 1851, 1871, 1881*

カトリックは1851～71年に急増しているが、英国教会は1851年の3割から81年には2割以下に減少している。メソジストやバプテスト、会衆派教会³⁴⁾といったアメリカ合衆国の影響が強い宗派が浸透してきた。オンタリオ州の平均と比較すると、カトリックが非常に多く、長老教会も多い。カトリックの信者が多いのはグエルフの独自性であり、長老教会員が多いのはウェリントン郡全体でスコットランド出身者が多いことを反映している。メソジストはやや少ないが増加傾向にあり、また英国教会の減少傾向はオンタリオ全体の傾向と同様である。

(2) 各宗派の展開：1840～50年代

長老教会・カトリック・英国教会のほか、1840年代半ばまでに、メソジスト・バプテスト・会衆派教会が組織化された³⁵⁾。バプテストの動きは緩やかであったが、メソジスト・会衆派教会は急速に発展した。急激な人口増加により各宗派の既存の教会は手狭になり、教会の建設や移転の動きが活発になった。財力を蓄えた小さな宗派も教会を建設した³⁶⁾ (表2・図3)。

また各宗派は、教会建設だけではなく様々な活動を通して、フロンティア地域のコミュニティ形成に大きく寄与した。カトリック教会は、学校・修道院・病院など大規模な施設建設に力を注ぎ、社会活動の中心を担った。プロテスタント各宗派は教育活動に力を入れた。主として長老教会とメソジストは小学校、英国教会は中学校の建設に力を入れた。日曜学校の設立も各宗派で見られた³⁷⁾。また1836年のアッパーカナダ聖書協会のグエルフ支部結成は、プロテスタントの宗派を超えた動きであり、その後組織は拡大した³⁸⁾。

①長老教会

1840年代前半、カナダに入ってきた自由教会運動³⁹⁾は、グエルフでも教会の分裂をもたらした。教会は政治から自由であるべきだ

- | | | |
|-------------|-----------------|------------|
| ① 長老教会 A～E | ② カトリック教会 F | ③ 英国教会 G～H |
| ④ メソジスト I～L | ⑤ 会衆派・バプテスト M～P | ⑥ その他 Q～U |



図3 19世紀中頃のグエルフの教会

Figure 3. Churches of Guelph in the middle of the nineteenth century ('Plan of the Town of Guelph by Donald McDonald, October 1847' に基づいて作成)

と考える人々が、聖アンドリュー長老教会 (図3のA) より分裂し、1844年にノックス独立教会 (B) を結成した。そして、1847年にカナダ・カンパニーに提供された区画に教会を建てた。同じく1844年には、第一長老教会 (C) が新たに組織化された。また、聖アンドリュー長老教会は、市役所用地となることが決まり、1855年に移転することになった。新しい教会は、1857年に着工し、1858年にゴシック様式の教会が完成した。

②カトリック教会

最初の木造教会は1844年に焼失したが、1852年にイエズス会の負担で、同じ場所に (F) 石造りの教会と使節団がつくられ、伝道本部がグエルフにおかれた。また1850年代に孤児院や学校、女子修道学校・修道院など大規模な社会施設が次々と設立された。

③英国教会

人口増加で手狭となった聖ジョージ教会 (G) は、1851年にロマネスク様式の教会へと建てかえられた。また、教区牧師館も建てられた。

④メソジスト

1828年頃から礼拝を行っていたが、1830年代前半のイギリス系住民の流入で教団設立の動きが活発となった。1837年、カナダ・カンパニーからウェスレー派メソジストに教会用地が譲渡され、1838年にノーフォーク教会 (I) が建てられた⁴⁰⁾。そして1854年に再建が始まり1856年に完成した (教会員350名)。また、1846年には第2の教会としてレンガ造りの原始メソジストのペイズリー教会 (J) が建てられた。

⑤会衆派教会・バプテスト

会衆派教会は、ロンドン伝道教会の支援によるところが大きく、1840年に小さなトリニティ教会 (M) が建てられた。バプテストは1827年から1850年の間に毎月定例の礼拝を行っていた。1853年に組織化され、1855年に教会用地が購入された。

(3) 各宗派の展開：1860年代以降

人口増加に伴う信者数増加により、多くの宗派で教会が新築・改築されていった⁴¹⁾ (表2・図3参照)。特にアメリカ合衆国の流れを汲むメソジストや会衆派教会、バプテストの動きが活発であった。また長老教会では、宗派内の分裂はおさまり、各宗派の統合が進んでいく。これは、20世紀初頭におこるプロテスタント諸宗派の合同教会形成の動きへとつながるものであった。

教会建築はカントリータウンの景観の中心となり、トロントの建築家ラングレー (H. Langley) が、3つの教会 (D・F・O) 建築を手掛けるなど、教会のデザイン性がより注目されるようになった。1840年代にイギリスの教会建築の多くに取り入れられたゴシック

建築が、1870年代に都市化の進むオンタリオでブームとなった。ゴシック教会の尖塔は、都市景観のシンボルとなり、特有のスカイラインを形成した⁴²⁾。同時期の他の町ではレンガや木材が使われているのに対し、グエルフの教会建築には地元の石灰岩が多く使われ、これも景観に統一性を与えることになった。

カントリータウン発展の主導権は、プランナーや企業家といった個人から組織へと移行していった。この時期、宗教組織や、禁酒・節制をよびかける団体のほか、スポーツ団体から慈善事業まで様々な組合や団体が結成されていった⁴³⁾ のが特徴的である。キリスト教関係では、1849年設立の会員数150名の聖アンドリュース協会 (長老教会)、会員数120名の聖ジョージ協会 (英国教会)、聖パトリック慈善協会 (カトリック教会)、英国教会教区連合、カトリック互助慈善組合などが組織された。また、宗派を超えたものとして前述のアップーカナダ聖書協会、YMCA (キリスト教青年会) が存在した。また各教会では、礼拝の他、日曜学校や聖書学習会、聖歌隊・音楽隊の活動などにも力を入れ、様々な形で、人々の生活と宗教は関わっていたと考えられる。

①長老教会

1868年にはノックス教会から第4の長老教会シャルマーズ教会 (D) が分裂し、1871年に完成した。そのためノックス独立教会 (B) は教会員数を減らしたが、1868年に新しい教会の建設を開始し、1869年に完成後、旧教会は工場に売却された。1870年代以降は宗派内の和解交渉が試みられ、1875年にカナダ長老教会に統合された。グエルフでは4教会が1つの宗派であることを確認し、第一長老教会 (C) は自主解散、教会員は他の3つの教会に入った。

②カトリック教会

カトリック教会 (F) では引き続き社会施設建設に力が入れられ、1861~62年には病

院・老人ホームが設立され、重要な社会的役割を果たした。1860年代には第2教会設立の動きもあったが、実現はしなかった。1876年には、新しい教会の建て替えが始まり、1800人を収容するゴシック様式の大教会の外観が、1888年に完成した⁴⁴⁾。

③英国教会

1850年代の急激な人口増加で、1851年に再建された聖ジョージ教会(G)はすぐに手狭となり、中心商業地から離れた場所に教会を移転する動きが始まった。1866年から1870年にかけての不況で一時停滞したが、1871年にスピード川の川岸に新しい教会の建設が始まり、1873年に完成した。旧教会の広場は町が買い取り、公園となった。1890年には聖ジョージ教会(G)から聖ジェームズ教会(H)が分離し、1892年に教会が完成した。

④メソジスト

教会員数が急増したペイズリー教会(J)は、移転・再建されることになり、1865年に完成した(教会員200名)。ノーフォーク教会(I)も1876年に改装された。また、第3の教会建設が1874年に始まり、ダブリン通り教会(K)が1876年に完成した(教会員350名)。1880年に建てられた第4のメソジスト監督教会(L)は、黒人教会の流れを汲むものである(教会員107名)。これらは1884年に統合され、カナダ・メソジスト教会となった。

⑤会衆派教会・バプテスト

会衆派教会は、第2教会のジオン教会(N)が1867年に完成した(教会員190名)。バプテストは、1868年に第一教会(O)が建てられたが、教会員数が急速に増え、1875年には移転・再建された(教会員218名)1890年には、第2教会のトリニティ教会(P)が組織化された。

⑥その他の宗派

1850年代後半から小さな宗派の活動が活発となり4つの教会(Q・R・S・T)が建設されたが、そのうち2つは1880年に閉鎖され大

きな流れとはならなかった。1880年代は救世軍⁴⁵⁾の活動が盛んであったが、グエルフでも1885年に集会所(U)を建設した。

IV. 開拓期におけるキリスト教

19世紀の開拓期カナダのキリスト教では、カトリックとプロテスタント、あるいはプロテスタント各宗派間の教義の違いはあまり重要でなかった。グエルフの事例においても、スコットランド出身のゴルトが最優先したのは、友人マクドネル司教のカトリック教会の用地であった。

ゴルトは、宗教を開拓の重要な要素の一つと捉えていた。1827年のタウン・プランニングでゴルトが教会建設を重視し、3つの教会用地を確保したことは、その後のグエルフの展開に大きく影響した。開拓初期の多くのカントリータウンにおいては、計画段階で共有地や教会・学校・中央広場の区画が確保されていても、計画通りに開発された例は数少ない⁴⁶⁾。宗教活動に対して恵まれた支援があったグエルフでは、組織化されたキリスト教各宗派の定着が他の居住地と比べて早く、教会建設が進み、急速な教団の発展が可能となった。そして各宗派の教会建築は、地元の石灰岩を利用し、統一された都市景観を形成していった。

初期の開拓者は、英国教会・スコットランド長老教会・カトリック教会など主として出身地の教団に所属することが多かった。また、アメリカ合衆国と比べて王党派の伝統が強く、メソジストではイギリスのウェスレー派が支持されていた。しかし、カナダの各地域で自治の気運が高まる19世紀後半になると、教会におけるイギリスとの関係が弱くなり、人々の志向・選択はそれ以前とは異なるものになっていった。

グエルフの教会建設にもその傾向が見られる。1850年代と1870年代は、グエルフの急激な成長の時期であり、教会建設が活発であっ

た。グエルフの特異な事情としては、カトリックの活発な教会活動と社会貢献の大きさが指摘できる。そして、次第にオンタリオ全体の傾向と同様に、アメリカ型のメソジストやバプテストが教会員数を増やしていく。厳しい開拓生活の精神的支えになる生活に密着した宗教が求められていく中で、布教・教育・社会福祉などの活動を熱心に行うメソジストは、カントリータウンに住む人々の支持を集めていった。1867年にイギリス領植民地から自治領カナダとなり、自由と自治を模索し始めた人々にとって、ヨーロッパ系プロテスタント宗派よりもアメリカ合衆国の影響の強い福音主義の方が、次第に魅力的になっていったのである。

また伝統的な宗派の一つである長老教会の展開に、19世紀カナダの宗教の特質をみることができる。1840年代におこった自由教会運動は、宗教の政治からの自由を掲げるものであった。グエルフでも宗派内の分裂の動きがみられた。1844年の独立教会結成から新しい教会建設が活発となり、1870年代半ばまで続いた。新しいグループは、北アメリカの福音主義プロテスタントの影響が強く、ここにもヨーロッパ型からアメリカ型への移行をみることが出来る。しかし1870年代半ばからは、宗派内グループの統合へと変化していく。

この変化は、メソジストでもみられ、20世紀初頭のプロテスタント諸宗派の合同教会形成へとつながっていくのである。元来、宗派の差異は出身地の差異であり、それが19世紀中頃からカナダ生まれの世代が増え、人々の意識もカナダ人としての意識が強くなっていったと考えられる。19世紀カナダの宗教の特質は、「分裂・共存を経ての統合」と言える。これはカナダが、移民が開拓するフロンティアから、カナダ人の国家へと変化していくことの反映であった。各カントリータウンにおける宗教は、開拓当初においてはヨーロッパの伝統を持つ宗派をそのまま受容する

ことから始まった。やがて、カナダの政治体制が自治領へと変化する中で、宗教も次第にアメリカ合衆国の影響⁴⁷⁾を強く受けながら、多くの宗派が共存する状態となった。コミュニティが経済発展を遂げ成熟するにつれ、元来教義の差異にこだわらないカナダのキリスト教の各宗派が統合されていくのは、ごく自然な流れであったと考えられる。

19世紀に建設されたウェリントン郡の教会総数は238、メソジストの78を筆頭に、長老教会47、英国教会27、バプテスト18、カトリック14、会衆派教会13と続く。グエルフでは21の教会が建てられ、長老教会5、メソジスト4、英国教会・バプテスト・会衆派教会2、ローマカトリック1である⁴⁸⁾。プロテスタント各宗派は、分裂・共存・統合をしながら、全体としてキリスト教が浸透していったことが、この多くの教会数に表れている。

南オンタリオでは、アメリカ合衆国が17世紀後半からの250年間の開拓期に経験したキリスト教とカントリータウン発展の歩みを、19世紀の100年に凝縮し経験したと言える。また、アメリカ合衆国とは異なるイギリスとの関係が、ヨーロッパの伝統をより濃く受けながらカナダ独自のキリスト教文化を形成し、それがカントリータウンの展開に反映されている。19世紀カナダのキリスト教各宗派の展開は、フロンティアから都市社会へと変貌していく時期に生きた人々の生活実態と精神性を反映するものである。

小稿では、キリスト教各宗派の設立と教会の建設を中心に、19世紀南オンタリオのカントリータウンの計画・発展過程を検討した。しかし、教会に関わった様々な活動の分析は、十分に出来なかった。また、19世紀のカナダに影響を与えたイギリス・アメリカ合衆国のタウン・プランニングと各宗派の系譜の検討も必要であろう。今後の課題としたい。

(同志社女子中学・高等学校)

〔付記〕

ご指導いただきました京都大学の金田章裕先生、グェルフ大学名誉教授のDr.F.A.Dahms先生に感謝いたします。本研究には、平成13年度福武学術文化振興財団研究助成金を使用しました。

〔注〕

- 1) 主として農牧業地域の中心集落の呼称には、カントリータウン (country town), 中心町 (rural center, service town), 小集落 (small town) などがある。金田章裕「クイーンズランド南部農牧業地帯における地域構造の変化」追手門大学オーストラリア研究紀要17, 1991, 195~220頁。
- 2) 木村和男, フィリップ・バックナー, ノーマン・ヒルマー『カナダの歴史—大英帝国の忠実な長女1713-1982—』刀水書房, 1997, 41~48頁。
- 3) タウンシップは、もともと中世イングランドの村落単位であったが、北米のイギリス植民地で概念が多様化した。アメリカ合衆国では1800年ごろ確立した6マイル四方をタウンシップとするタウンシップ・システムで土地測量・区画設定の単位をあらわすのみになった。カナダでは、開拓期の測量単位であり現在まで行政単位となっているが、その大きさと区分法は多様である。Kinda, A., "The Concept of 'Township' in Britain and the British Colonies in the Seventeenth and Eighteenth Centuries", *Journal of Historical Geography*, 27-2, 2001, pp.137-152.
- 4) Gentilcore, R.L. and Head, C.G., *Ontario's History in Maps*, University of Toronto Press, 1984, pp.89-91.
- 5) 拙稿「19世紀カナダにおけるカントリータウンの計画と展開—アッパーカナダのエローラ村を事例として—」, *人文地理*52-4, 2000, 37~51頁。
- 6) Noll, W.A., *A History of Christianity in the United States and Canada*, Eerdmans, 2000 (1992), p.284.
- 7) Grant, J.W., *A Profusion of Spires: Religion in Nineteenth-century Ontario*, University of Toronto Press, 1988, pp.3-19.
- 8) 19世紀前半, ヨーロッパでは信仰復興運動の中で福音主義が広まり, 世界各地への伝道が活発になった。また, アメリカ合衆国でも西部開拓者たちが伝道集会に参加する第二次大覚醒といわれる福音主義運動が広がっていった。(マイケル・コリンズ, マシュー・A・プライス『キリスト教の歴史—2000年を刻んだ信仰の物語』BL出版, 2001, 164~193頁。)
- 9) 拙稿「カントリータウンを中心とする空間—カナダ南オンタリオを事例として—」, *人文地理*48-3, 1996, 77~92頁。
- 10) Gentilcore, R.L. ed., *Historical Atlas of Canada II: The Land Transformed 1800-1891*, University of Toronto Press, 1993, pp.133-135, 138-141.
 - 11) 前掲7) pp.52-67.
 - 12) 前掲7)。
 - 13) 前掲6) pp.246-250.
 - 14) ①前掲7), ②前掲10)。
 - 15) 教会付属地 (glebe land) とは, 教会によって所有されている農業用地で, そこでの生産は聖職者・牧師の財政支援となった。前掲10) pp. 180.
 - 16) 前掲6) pp.265-275.
 - 17) 前掲2) 55~77頁。
 - 18) Kilbourn, W. ed., *Religion in Canada; the Spiritual Development of a Nation*, Toronto, McClelland and Stewart, 1968, pp.29-32, 40-43.
 - 19) 監督制度を廃し, 教職と長老職の同権を唱える。宗教改革者カルヴァンの系列。スコットランドで国教的地位を確立。
 - 20) 18世紀にイギリスでウエスレーらが起こした敬虔主義の運動。聖書を中心として体験と実践を強調。19世紀アメリカで勢力を拡大した。
 - 21) 信仰告白を行った者のみ教会員と認める (幼児洗礼を認めない)。各教会の独立性と個人の良心の自由を尊重する。メソジストと共に, アメリカの二大プロテスタントとなった。
 - 22) 前掲11)。
 - 23) Clarke, B., 'English-speaking Canada from 1854' (Murphy, T. ed., *A concise History of*

- Christianity in Canada*, Oxford University Press, 1996), pp.261-266.
- 24) ①Hutchinson, J. F., *The History of Wellington County*, Landsborough Printing, 1998, pp.139-168. ②Beattie, D., *Pillars and patches along the pathway: A history of Nichol Township*, Vidette Printings, 1984, pp. 3-5, 93-99.
- 25) Johnson, L. A., *History of Guelph 1827-1927*, Guelph Historical Society, 1977, pp.3-25.
- 26) 前掲25)。
- 27) Stelter, G.A., 'Combining Town And Country Planning in Upper Canada: William Gilkison and the Founding of Elora', *Historic Guelph*, 24, 1985, pp.20-45.
- 28) Dahms, F.A., 'The Growth and Planning of Guelph in the Twentieth Century', (Matheson, D., and Anderson, R. eds. *Guelph: Perspectives on a century of change 1900-2000*, 2000), pp.222-264.
- 29) 前掲25) pp.109-118.
- 30) 教会名に続く () のローマ字は、表2に示すものである。①前掲25) pp.219-237, ②各教会資料 (長老教会: 'Presbyterian churches in Guelph', 1961, カトリック: 'The Church of Our Lady', 英国教会: "A history of St. George's Church 1832-1982", St. James the Apostle)。
- 31) 前掲5)。
- 32) 前掲28)。
- 33) 南オンタリオの行政区分は、大きく市 (city) と郡 (county) に分かれる。郡内では、カントリータウンであるタウン、ビレッジとタウンシップが自治体の組織を持つ。タウンシップはハムレットとよばれる小集落と点在する農家からなる (前掲9))。市は、グエルフのような大きなカントリータウンがタウンから昇格する機会が多いと考えられる。
- 34) 17世紀のイギリスで、個々の教会の独立と自治をを標榜した一派。アメリカでは17世紀マサチューセッツ植民地で組織化された。日本では組合教会と称している。
- 35) 前掲25) pp.219-231.
- 36) ①前掲30), ②Moore, G.F., *Places of Worship Records Inventory* Wellington County Section, Ontario Genealogical Society, 1996, ③Stelter, G.A. and McLaren, S., 'Dublin Street United Church (1874-1999)', *Historic Guelph* 34, Guelph Historical Society, 2000, pp.73-75, ④Crowley, T., 'Building the Unfinished Church: The Origins of St. James and the Apostle Anglican Church', *Historic Guelph* 28, Guelph Historical Society, 1989, pp.32-53, ⑤Parker, V., 'Paisley Memorial United Church' *Historic Guelph* 28, Guelph Historical Society, 1989, pp.92-104.
- 37) 日曜学校運動は、産業革命期のイギリスで働く子供の生活改善を目的に始められた。19世紀にはヨーロッパ各地やアメリカに広がった。前掲8)。
- 38) 前掲25) pp.232-233.
- 39) 各宗派内で教会の分裂の動きが活発になった。特に長老教会では、宗教は政治とともに歩むべきか、政治から自由であるべきかという議論が高まった。後者を主張するカナダに入ってきた自由教会運動は、スコットランドの伝統と北アメリカ福音主義プロテスタントの習慣をあわせもつものであった。
- 40) この土地は、1840年に再譲渡された。メソジスト教会は、カナダ・カンパニーより譲渡されたノーフォーク教会の反対側の区画を教会地とした。
- 41) 前掲36)。
- 42) ①Westfall, W. and Thurldy, M. 'The church in the town: the adaptation of sacred architecture to urban setting in Ontario', *Canadian Studies* 20, 1986, pp.49-59, ②Stelter, G.A. 'Henry Langley and the Making of Gothic Guelph', *Historic Guelph* 28, Guelph Historical Society, 1989, pp.4-30.
- 43) 前掲38)。
- 44) 1907年に内装工事を開始し1926年に完成した。聖母マリア教会 (Church of Our Lady) とよばれる美しいこの教会は、現在にいたるまで宗派を超えたグエルフのシンボルとなっている。
- 45) 救世軍とは、1865年創設のキリスト教団体

で軍隊組織をとりながら慈善事業を行った。1882年にカナダに入り、オンタリオや大西洋地域に急速に広まった。前掲10), pp.140-141.

46) 前掲4)。

47) アメリカ合衆国の宗教の大きな特徴の一つは、「デノミネーションナリズム (教派主義)」である。ヨーロッパにおける国教制度の下での宗教対立への反省から、すべての教会

に憲法のもとでの平等な権利を与え、お互いに自由に競い合わせた。独立革命期から19世紀半ばにかけて発展した。①森孝一『宗教からよむ「アメリカ」』, 講談社, 1999, 50~52頁。②中野毅「政教分離社会の展開とデノミネーションナリズム」(井門富二夫編『アメリカの宗教—多民族社会の世界観』弘文堂, 1992) 58~92頁。

48) 前掲36) ②。

Town Planning and Christianity During the Nineteenth Century in Guelph, Southern Ontario

TANIGUCHI Mitsuko

Country Towns are small settlements which are scattered across rural areas. Many in North America and Australia were planned and located as the basis for pioneer settlement. In Southern Ontario, the British Imperial Government purchased the land from the indigenous people and granted it to new settlers between 1800 and 1820. At the beginning, the work of the land survey and the planning of towns were carried out by Imperial officials, but gradually private entrepreneurs became interested and got into the work. Meanwhile, Christianity in Canada during the nineteenth century played a role in regulating people and organizing a new society. Churches were supposed to be an important element of the formation and development of country towns.

The purpose of this research is to reveal the process of formation of communities from the view point of the relationship between town planning and Christianity. Guelph was chosen as a typical country town in Southern Ontario. It is situated in the middle of Southern Ontario, and its planning and development started in the 1830s when the development of Southern Ontario began in earnest. The following approaches were taken to examine and assess the sample town.

First, the religious environment of Canada in the nineteenth century was discussed. There were Christian denominations and some of them were traditional and European in origin and others were evangelical and American. During that century, four denominations became the leading ones: Catholic, Presbyterian, Anglican and Methodist. In the latter part of the century, the Methodist, Presbyterian and Baptist denominations accounted for a higher proportion. People in pioneer settlements preferred Methodist and Presbyterian to Anglican, because the missions of the former groups were close and stable. During the middle of the century, some denominations were divided and new religious movements came to Canada.

Second, the town planning of Guelph was discussed. Guelph was planned by John Galt, a Scottish writer who established a land speculation company, "the Canada Company". He came to Canada in 1827, and chose the land in Wellington County to make the first country town "Guelph". Galt thought that religion was important for town planning, and hills and squares were reserved for three churches. Galt promoted Guelph as a major urban center, he had made grants of land and gifts of money to religious groups to establish churches. Three groups—Presbyterian, Catholic and Anglican—were organized and built churches in the 1830s.

Third, the social development of Guelph between the 1840s and 1880s was discussed. The pop-

ulation increased rapidly from the 1850s and the town developed its residential, commercial and industrial areas. The construction of churches was an important part of this progress. The three main religious groups found their churches too small for the needs of their congregations and built new churches. The Free Church movement of the Presbyterians came to Guelph and it divided the group into three churches. New Groups such as Methodist, Baptist and Congregation were organized and built churches. In the 1860s, many denominations expanded and a great many new and substantial churches were erected and those shaped the urban landscape. In addition to the erection of churches, Christian denominations built social institutions such as schools and hospitals and contributed to the formation of community.

From these three approaches, the results can be summarized as follows: In Guelph, organized religious groups grew rapidly, because from the beginning building churches was considered very important for town planning. In the pioneer era, people sought closeness and consolation in religion. Doctorial differences between Christian denominations were not important. During the nineteenth century, Protestant denominations in Canada have experienced the division, the coexistence and the integration. And these made more evangelical Christian culture which was gradually made in the United States in about 250 years. The process of establishment of religious groups reflected the people and their community in the era when these settlements changed from frontiers to urban centers.

Key Words: nineteenth century, town planning, Guelph, Christian denominations, church building